

2014年10月23日

プレスリリース

本資料は10月23日にチューリッヒで発表されたプレスリリースの翻訳版です

クレディ・スイス・グループの2014年第3四半期業績:

戦略的事業のコア税引前利益 16 億 2,200 万 CHF、株主資本利益率 11%

公表コア税引前利益 13 億 100 万 CHF、株主資本利益率 10%

クレディ・スイス・グループの2014年1-9月期業績:

戦略的事業のコア税引前利益 53 億 4,100 万 CHF、株主資本利益率 13%

公表コア税引前利益 23 億 3,100 万 CHF、株主資本利益率 4%

当四半期末現在のルックスルーの CET1 は 9.8%、2014 年末までに 10%を超えるという目標に向かって順調に推移

当四半期のプライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業業績:

継続的な費用管理と安定的な収入を反映、戦略的事業の新規純資産は 88 億 CHF、全体の新規純資産は 74 億 CHF

当四半期のインベストメント・バンキング部門の業績:

一段と強化された収益性と収益率並びに活発な顧客活動を反映: 非戦略的事業の縮小は引き続き進展

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業、費用面で引き続き進展:

- ・ 戦略的事業の税引前利益は8億 7,200 万 CHF、前年同期比で8%増加。規制資本利益率は 27%。
- ・ 当四半期の公表税引前利益合計は9億 4,300 万 CHF。着実な戦略的事業業績と、非戦略的事業に計上されたドイツ国内のプライベート・バンキング事業の売却益を反映。
- ・ 戦略的事業で費用効率化が続き、2014年1-9月期と当四半期の費用/収入比率は 69%。
- ・ ウェルス・マネジメント顧客事業のネット・マージン、2014年1-9月期は 27 ベーシス・ポイント(bp)、当四半期は 25bp。訴訟関連引当金 4,100 万 CHF を除いた当四半期のネット・マージンは 27bp。
- ・ 戦略的事業の当四半期の新規純資産は、アジア太平洋が特に高成長で、資産基盤の継続的な組織化による西欧地域のクロスボーダー事業から引き続き7億 CHF の資産が流出したにもかかわらず、88 億 CHF。西欧地域のクロスボーダー事業からの 15 億 CHF の資産の流出を含め、全体の新規純資産は 74 億 CHF。
- ・ 新興国と先進国ともに超富裕層個人向けの貸出しが引き続き好調。2014年1-9月期の純新規貸出は 39 億 CHF、対して 2013年1-9月期は 10 億 CHF。

インベストメント・バンキング部門の当四半期業績、大幅に向上した収益性、改善した利益率及び堅調な顧客活動を反映:

- ・ 戦略的事業における税引前利益は9億 9,500 万 CHF、前年同期比 43%増、規制資本利益率は 17%。多くの事業にまたがる顧客活動の活発化による。
- ・ 債券関連業績が好調。特に証券化商品と新興国市場。
- ・ 株式関連業績は、出来高不振の現物株式を堅調なデリバティブ収入が相殺し、横ばい。
- ・ 引受及びアドバイザーの業績は、好調な金融商品発行業務及び持続的な市場シェアを反映。
- ・ 公表税引前利益は 5 億 1,600 万 CHF。費用増により一部が相殺されるも、多くの戦略的事業で広範囲に活発化した顧客活動による。
- ・ 2014 年1-9月期の、戦略的事業における規制資本利益率は 19%、公表業績ベースは 11%。
- ・ 非戦略的事業の縮小継続。リスク加重資産は 20 億米ドル縮小、レバレッジ・エクスポージャーは 110 億米ドル縮小。

当四半期末現在の資本基盤及びレバレッジ比率は強靱:年末までのルックスルーの CET1 比率 10%超に向けて進捗

- ・ ルックスルーの BIS CET1 比率は 9.8%。米国のクロスボーダー案件に関する和解後に発表した資本基盤強化措置実施の進捗により、年末までの CET1 比率 10%超達成に向けて順調に推移(2014 年度の未払配当金の継続計上を含む)、ルックスルーのスイス国内自己資本比率は 15.8%
- ・ ルックスルーのスイス国内レバレッジ比率は 3.8%。2019 年要件 4.1%の段階的導入における 2015 年必要水準は達成圏内。2015 年末の目標は約 4.5%。

コスト削減目標に向かって引き続き進展:

- ・ 調整済み年率換算費用削減額は、2011 年上半期年率換算ランレート対比 36 億 CHF となり、2015 年末までの費用削減目標 45 億 CHF 超の達成に向けて順調に推移。

クレディ・スイス・グループは、2014年10月23日、2014年第3四半期業績を発表しました。

今回の発表について、最高経営責任者(CEO)のブレイディ・ドゥーガンは、次のように述べました。「業績は好調です。戦略的事業の規制資本利益率は、当四半期で11%、2014年1-9月期では13%となりました。当四半期中の、両部門の顧客獲得は好調を維持しました。当社は、引き続き資本基盤強化措置を実施しており、当四半期末のルックスルーCET 1比率は9.8%と、年末までにルックスルーCET 1比率を10%超まで高めるという目標に向かって順調に推移しています。」

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門について、「低金利環境によって、マージンは低水準にとどまり、収益も引き続き悪影響を受けていますが、利益率は、実行中の費用管理によって改善しました。戦略的事業では、新興国市場、特にアジア太平洋地域の力強い成長によって、88億CHFの新規純資産を獲得しました。これは、西欧市場のクロスボーダー事業からの資金流出で一部相殺されましたが、それは当社が、資産基盤の整備をより重視したためです。超富裕層個人に対する貸出しが順調に成長し、両部門間のコラボレーション収益も増加しています。これは、特に同顧客セグメントにおいては、競争上優位となると当社は考えています。」

インベストメント・バンキング部門について、「同部門の戦略的事業業績は、大幅に向上した利益性、改善した利益率及び当社の多くの事業にわたる堅調な顧客活動を反映しています。債券トレーディング(特に新興国市場と証券化商品のトレーディング)と株式の引受における良好な業績は、顧客による大規模なトレーディングによるものです。当社は、資本基盤の強化と戦略事業での費用の効率化に引き続き取り組んでおり、2014年1-9月期の規制資本利益率は19%、費用/収入比率は69%となりました。また、非戦略的事業のリスク加重試算の縮小でも進捗をみました。」

第4四半期の見通しについては、「10月の出足にはばらつきがあり、市場の最近の乱高下が両部門の一部の事業にとってプラスとなった一方で、それ以外の事業ではマイナスとなりました。アドバイザリー及び引受事業では大量の案件が控えていますが、第4四半期中の約定の進捗は市場環境次第になるでしょう。」

コア業績サマリー

本業績リリース(株主資本利益率及び規制資本利益率の記載内容を含みます。)に記載されている財務情報に関する追加情報については、当社ホームページにある決算リリースの付属資料(Appendix)の開示財務諸表及び19ページの「重要な情報(Important Information)」セクションにおける資本及びレバレッジ関連指標に関するその他の開示説明資料をご覧ください。

コア業績ハイライト

	期/期末			増減率(%)		期/期末 増減率(%)		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
公表業績(単位:百万CHF)								
純収益	6,537	6,433	5,449	2	20	19,439	19,297	1
貸倒引当金繰入額	59	18	41	228	44	111	114	(3)
営業費用合計	5,177	6,785	4,720	(24)	10	16,997	15,150	12
継続事業からの税引前利益/(損失)	1,301	(370)	688	-	89	2,331	4,033	(42)
株主に帰属する純利益/(損失)	1,025	(700)	454	-	126	1,184	2,802	(58)
指標(%)								
規制資本利益率	12.8	-	6.8	-	-	7.8	13.4	-
費用/収入比率	79.2	105.5	86.6	-	-	87.4	78.5	-
戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
純収益	6,287	6,309	5,693	0	10	19,126	19,451	(2)
貸倒引当金繰入額	53	25	20	112	165	96	59	63
営業費用合計	4,612	4,509	4,257	2	8	13,689	13,680	0
継続事業からの税引前利益	1,622	1,775	1,416	(9)	15	5,341	5,712	(6)
株主に帰属する純利益	1,115	1,288	987	(13)	13	3,807	4,013	(5)
指標(%)								
規制資本利益率	17.1	19.4	15.5	-	-	19.4	21.0	-
費用/収入比率	73.4	71.5	74.8	-	-	71.6	70.3	-
非戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
純収益	250	124	(244)	102	-	313	(154)	-
貸倒引当金繰入額	6	(7)	21	-	(71)	15	55	(73)
営業費用合計	565	2,276	463	(75)	22	3,308	1,470	125
継続事業からの税引前損失	(321)	(2,145)	(728)	(85)	(56)	(3,010)	(1,679)	79
株主に帰属する純損失	(90)	(1,988)	(533)	(95)	(83)	(2,623)	(1,211)	117

注:上記コア業績には、重要な経済的持分を持たない非支配持分は含まれておりません

2014年第3四半期の株主帰属純利益は10億2,500万CHFでした。

税引前利益は、13億100万CHFと前年同期を89%上回り、純収益の20%の増加を反映していますが、営業費用合計の10%増加で一部相殺されました。戦略的事業の税引前利益は16億2,200万CHFと前年同期を15%上回りました。非戦略的事業では、前年同期は7億2,800万CHFの税引前損失であったのに対し、3億2,100万CHFの税引前損失でした。

純収益は、65億3,700万CHFと前年同期を20%上回りました。戦略的事業の純収益は、62億8,700万CHFで、前年同期を10%上回り、インベストメント・バンキング部門の純収益は増加した一方で、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門では安定的に推移しました。非戦略的事業の当四半期の純収益は、前年同期は2億4,400万CHFの損失であったのに対し、2億5,000万CHFでした。

貸倒引当金繰入額は、5,900万CHFで、インベストメント・バンキング部門が3,600万CHF、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門が2,500万CHFでした。

営業費用合計は、51億7,700万CHFと前年同期を10%上回りましたが、これは主として一般管理費の15%増、並びに従業員報酬及び給付費用の9%増によるものです。戦略的事業の営業費用合計は、46億1,200万CHFで前年同期を8%上回りましたが、これは主として従業員報酬及び給付費用の12%増、並びに一般管理費の8%増によるものです。非戦略的事業の営業費用合計は、5億6,500万CHFで前年同期を22%上回り、これは主として一般管理費の55%増によるものですが、従業員報酬及び給付費用の34%減で一部相殺されました。当四半期の事業再編費用は9,300万CHFでした。

法人税は、3億6,600万CHFでした。これは主に各地域の業績の合計を反映したものです。全体として、当四半期末現在の繰延税金資産(純額)は、前四半期から2億5,800万CHF増加し、53億9,200万CHFとなりましたが、これは主として為替変動によるものです。純営業損失に対する繰延税金資産は、当四半期中に2億3,200万CHF増加し、9億9,000万CHFとなりました。当四半期のコア業績の実効税率は28.1%(前四半期は-83.0%)でした。前四半期の実効税率は、訴訟和解関連費用の大部分が控除対象外であることを反映しています。

一部の訴訟手続に関する合理的な可能性のある損失の範囲:クレディ・スイス・グループが推定可能な訴訟の既存引当金で網羅されない合理的な可能性のある損失に関して、クレディ・スイス・グループが総額として推定している範囲は、当四半期末現在でゼロから12億CHFです。

継続事業からの希薄化後1株当たり利益は、0.55CHF(前年同期は0.17CHFの1株当たり利益、前四半期は0.45CHFの1株当たり損失)でした。

資本及びレバレッジ:当四半期末現在のクレディ・スイス・グループのルックスルーのBIS普通株式等Tier 1(CET 1)比率は9.8%(前四半期末現在は9.5%)でした。当四半期末現在のルックスルーのスイス国内自己資本比率は15.8%(前四半期は15.3%)でした。

当四半期末現在のCET1比率は14.3%(前四半期末現在は13.8%)でした。これは主としてCET1資本の増加によるもので、グループ全体のバーゼル3リスク加重資産の増加により一部相殺されました。グループ全体のバーゼル3リスク加重資産は、当四半期末現在2,929億CHFに増加しました。リスク加重資産の増加は、外国為替換算の影響によるものです。外国為替換算の影響を除くと、信用リスクと市場リスクは減少しています。

当四半期末現在のクレディ・スイス・グループのレバレッジ・エクスポージャーは、1兆2,400億CHFでした。ルックスルーのスイス国内レバレッジ比率は3.8%でした。

統合事業モデルのメリット:当四半期中に、クレディ・スイス・グループは、統合事業モデルから12億CHFのコラボレーション収益を創出しました。この金額は、当グループの当四半期のコア純収益の17.6%に相当します。

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門

2014年第3四半期のプライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の税引前純利益は9億4,300万CHF、純収益は31億2,500万CHFでした。同部門の戦略的事業においては、税引前利益は8億7,200万CHF、純収益は29億3,900万CHFでした。前年同期と比較して、戦略的事業の税引前利益は8%増加しましたが、これは主として、費用効率性が引き続き改善したことに伴う営業費用の減少によるものです。純収益は、前年同期と比較して安定的に推移しましたが、これは、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益並びにその他の収益の増加が、純利息収入の減少により相殺されたためです。税引前利益は、前四半期と比較して安定的に推移しましたが、これは、純収益及び営業費用が安定的に推移したためです。同部門の非戦略的事業においては、税引前利益は7,100万CHFでしたが、その中には、ドイツ国内のプライベート・バンキング事業の売却益1億900万CHFが含まれています。当四半期の同部門の運用資産は1兆3,661億CHFで、同部門は74億CHFの新規純資産を取得しました。

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門

	期 / 期末			増減率(%)		期 / 期末 増減率(%)		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
公表業績 (単位: 百万CHF)								
純収益	3,125	3,046	3,316	3	(6)	9,411	10,013	(6)
貸倒引当金繰入額	25	23	34	9	(26)	81	108	(25)
従業員報酬及び給付費用	1,194	1,235	1,285	(3)	(7)	3,719	4,017	(7)
その他の営業費用合計	963	2,537	979	(62)	(2)	4,405	3,072	43
営業費用合計	2,157	3,772	2,264	(43)	(5)	8,124	7,089	15
税引前利益/(損失)	943	(749)	1,018	-	(7)	1,206	2,816	(57)
指標 (%)								
規制資本利益率	27.3	-	31.8	-	-	12.0	29.7	-
費用/収入比率	69.0	123.8	68.3	-	-	86.3	70.8	-

戦略的事業業績

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業業績は、ウェルス・マネジメント顧客事業、コーポレート & インスティテューショナル顧客事業、アセット・マネジメント事業の各事業から構成されています。

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門-戦略的事業業績

	期 / 期末			増減率(%)		期 / 期末 増減率(%)		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)								
純利息収入	968	954	1,044	1	(7)	2,885	3,117	(7)
経常手数料収益	1,149	1,136	1,149	1	0	3,424	3,405	1
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの	827	865	774	(4)	7	2,611	2,681	(3)
その他の収益	(5)	(23)	(33)	(78)	(85)	(18)	(29)	(38)
純収益	2,939	2,932	2,934	0	0	8,902	9,174	(3)
貸倒引当金繰入額	26	30	13	(13)	100	73	55	33
営業費用合計	2,041	2,020	2,113	1	(3)	6,110	6,540	(7)
税引前利益	872	882	808	(1)	8	2,719	2,579	5
指標 (%)								
規制資本利益率	26.7	28.0	27.2	-	-	28.7	29.3	-
費用/収入比率	69.4	68.9	72.0	-	-	68.6	71.3	-

2014年第3四半期のプライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業における税引前利益は8億7,200万CHF、純収益は29億3,900万CHFでした。

当四半期の純収益は、前年同期と比較して安定的に推移しましたが、これは、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益並びにその他の収益の増加が、純利息収入の減少によって相殺されたためです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の増加は、仲介及び金融商品発行手数料収入の増加、企業向けアドバイザー手数料の大幅な増加、及び流動資金ポートフォリオにおける資金効率の高いポジションに関連する利益によるものですが、外国為替顧客事業の減少並びに運用報酬及び成功報酬の大幅な減少によって一部相殺されました。その他の収入は改善しましたが、これは、前年同期における資本参加に対する減損及び当四半期における投資関連収益の増加によるものです。純利息収入は、低金利環境において減少しましたが、これは、増加した平均貸出残高に対する利ざやが安定して推移したことによって一部相殺されたものの、若干増加した平均預金残高に対する預金金利の利ざやが大幅に減少したためです。経常手数料収益は安定的に推移しましたが、これは、バンキング・サービス手数料収入と投資商品運用手数料収入の減少によって一部相殺されたものの、投資顧問報酬収入が増加し、投資口座及びサービス手数料収入並びに資産運用手数料収入が若干増加したためです。

ウェルス・マネジメント顧客事業を主体とした純収益は、米ドル高の恩恵を受け、前四半期と比較して安定的に推移しましたが、これは、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの減収によって一部相殺されたものの、その他収益が改善したためです。その他収益の改善は、主として、前四半期の Clock Finance 社に関する取引における公正価値評価損の増加によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収入の減少は、企業アドバイザー手数料の増加によって一部相殺されたものの、運用報酬と成功報酬が大幅に減少し、季節的に減少する仲介及び金融商品発行手数料収入、並びに販売及びトレーディング収入が減少したことによるものです。経常手数料収益は安定的に推移しましたが、これは、投資商品運用手数料の増加が、運用資産及びバンキング・サービス手数料収入の若干の減少によって相殺されたためです。純利息収入は安定的に推移しましたが、これは、若干増加した平均貸出残高に対する貸出金利の利ざやの若干の増加が、横ばいの平均預金残高に対する預金金利の利ざやの低下によって相殺されたためです。

貸倒引当金繰入額は、2,600万CHF(前年同期は1,300万CHF、前四半期は3,000万CHF)でした。

当四半期の営業費用合計は、前年同期と比較して3%減少しましたが、前四半期と比較すると横ばいとなりました。従業員報酬及び給付費用は、前年同期と比較して5%減少しましたが、これは主として、人員減少による給与関連費用の減少によるものです。一般管理費は安定的に推移しましたが、これは、訴訟関連引当金の積増しが、設備関連費用及び賃貸関連費用の減少によって相殺されたためです。従業員報酬及び給付費用は、前四半期と比較して3%減少しましたが、これは、社会保障費用と裁量業績連動報酬の費用が減少したためです。一般管理費は9%増加しましたが、これは主として、支払報酬の減少と旅費交通費及び接待費用の減少によって一部相殺されたものの、訴訟引当金が積増しされたためです。

当四半期の戦略的事業の費用／収入比率は69%であり、前年同期と比較して3ポイント下回り、前四半期を1ポイント上回りました。

ウェルス・マネジメント顧客事業

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)								
純利息収入	695	688	766	1	(9)	2,089	2,290	(9)
経常手数料収益	744	728	747	2	0	2,202	2,214	(1)
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	603	601	549	0	10	1,842	1,884	(2)
純収益	2,042	2,017	2,062	1	(1)	6,133	6,388	(4)
貸倒引当金繰入額	17	17	21	0	(19)	50	60	(17)
営業費用合計	1,489	1,431	1,532	4	(3)	4,400	4,744	(7)
税引前利益	536	569	509	(6)	5	1,683	1,584	6
指標 (%)								
費用/収入比率	72.9	70.9	74.3	-	-	71.7	74.3	-

当四半期のウェルス・マネジメント顧客事業の税引前利益は5億 3,600 万 CHF、純収益は 20 億 4,200 万 CHF でした。純収益は、前年同期と比較して安定的に推移しましたが、これは、純利息収入の減少がトランザクション及びパフォーマンス・ベースの収入の増加によって相殺されたためです。純利息収入の減少は、低金利環境、横ばいの平均預金残高に対する預金金利の利ざやの大幅な減少、増加した平均貸出残高に対する貸出金利の利ざやの若干の減少、及び安定資金供給源として分類される預金量の減少によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収入の増加は、外国為替顧客事業の減少によって一部相殺されたものの、仲介及び金融商品発行手数料収入が増加し、モデル事業からの収益による企業アドバイザー手数料の大幅に増加し、流動資金ポートフォリオにおける資金効率の高いポジションに関連する収益によるものです。経常手数料収益は安定的に推移しましたが、これは、投資顧問報酬収入の増加並びに投資口座及びサービス手数料収入の若干の増加が、バンキング・サービス手数料収入と投資商品運用手数料収入の減少によって相殺されたためです。

当四半期の純収益は、前四半期と比較して安定的に推移しましたが、これは、経常手数料収益が若干増加したことによるものです。経常手数料収益は若干増加しましたが、これは、バンキング・サービス手数料収入の若干の減少によって一部相殺されたものの、投資商品運用手数料収入が増加し、投資顧問報酬収入が若干増加し、投資口座及びサービス手数料収入が若干増加したためです。純利息収入は安定的に推移しましたが、これは、若干増加した平均貸出残高に対する貸出金利の利ざやの若干の増加が、横ばいの平均預金残高に対する預金金利の利ざやの減少によって相殺されたためです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益は安定的に推移しましたが、これは、企業アドバイザー手数料の大幅な増加及び流動資金ポートフォリオのポジションの資金効率改善による利益が、季節的に減少する仲介及び金融商品発行手数料収入並びに販売及びトレーディング収入の減少によって一部相殺されたためです。

当四半期のグロス・マージンは、97 bp であり、前年同期と比較して8 bp 減少しましたが、これは主として、不利な金利環境の継続と平均運用資産の 8.1%の増加によるものです。グロス・マージンは、前四半期と比較して2 bp 減少しましたが、これは、米ドル高に伴う平均運用資産の 3.3%の増加によるものです。

当四半期のウェルス・マネジメント顧客事業のネット・マージンは、25 bp であり、前年同期と比較して1 bp 減少しましたが、これは、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収入の増加と営業費用の若干の減少によって一部相殺されたものの、純利息収入が減少したことによるものです。ネット・マージンは、前四半期と比較して3 bp 減少しましたが、これは、訴訟関連引当金の積増しによるものです。

コーポレート&インスティテューショナル顧客事業

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
純利息収入	273	266	278	3	(2)	796	827	(4)
経常手数料収益	113	113	117	0	(3)	348	343	1
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	107	118	105	(9)	2	342	353	(3)
その他の収益	(5)	(22)	(1)	(77)	400	(31)	(12)	158
純収益	488	475	499	3	(2)	1,455	1,511	(4)
貸倒引当金繰入額	9	13	(8)	(31)	-	23	(5)	-
営業費用合計	239	251	256	(5)	(7)	735	764	(4)
税引前利益	240	211	251	14	(4)	697	752	(7)
指標 (%)								
費用/収入比率	49.0	52.8	51.3	-	-	50.5	50.6	-

2014年第3四半期のコーポレート&インスティテューショナル顧客事業の税引前利益は2億4,000万CHF、純収益は4億8,800万CHFでした。純収益は、前年同期と比較して2%減少しましたが、これは主として、純利息収入の若干の減少、経常手数料収益の若干の減少及びその他の収益の減少によるものです。純利息収入の若干の減少は、増加した平均貸出残高に対する貸出金利の利ざやの増加によって一部相殺されたものの、低金利環境において、安定資金供給源として分類される預金量が減少し、増加した平均預金残高に対する預金金利の利ざやが大幅に減少したためです。経常手数料収入は若干減少しましたが、主要な分野に大幅な変動はありませんでした。その他の収益は減少しましたが、これは、Clock Finance社に関する取引の公正価値評価損の増加によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益は若干増加しましたが、これは、企業アドバイザー手数料の大幅な増加によるものです。

前四半期と比較して、純収益は3%増加しましたが、これは、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少によって一部相殺されたものの、その他の収益の増加と純利息収入が若干増加したためです。その他の収益は増加しましたが、これは、前四半期のClock Finance社に関する取引の公正価値評価損の増加によるものです。純利息収入は若干増加しましたが、これは、横ばいだった平均預金残高に対する預金金利の利ざやの減少によって一部相殺されたものの、若干増加した平均貸出残高に対する貸出金利の利ざやが増加したためです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益は減少しましたが、これは主として、販売及びトレーディング収入の減少によるものです。経常手数料収入は安定的に推移しましたが、これは、投資商品運用手数料収入とバンキング・サービス手数料収入の増加が、資産運用報酬の減少によって相殺されたためです。

アセット・マネジメント事業

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
経常手数料収益	292	295	285	(1)	2	874	848	3
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	117	146	120	(20)	(3)	427	444	(4)
その他の収益	0	(1)	(32)	100	100	13	(17)	-
純収益	409	440	373	(7)	10	1,314	1,275	3
内フィー・ベース収益	398	428	394	(7)	1	1,264	1,248	1
貸倒引当金繰入額	0	0	0	-	-	0	0	-
営業費用合計	313	338	325	(7)	(4)	975	1,032	(6)
税引前利益	96	102	48	(6)	100	339	243	40
指標 (%)								
費用/収入比率	76.5	76.8	87.1	-	-	74.2	80.9	-

2014年第3四半期のアセット・マネジメント事業の税引前利益は9,600万CHF、純収益は4億900万CHFでした。純収益は前年同期と比較して10%増加しましたが、これは、前年同期に、Asset Management Finance LLCに関連する1,800万CHFの減損によって、株式投資益とその他利益が改善し、当四半期には、ヘッジ・ファンド投資の利益によって、投資関連益が増加したためです。フィー・ベースの収益は安定的に推移しましたが、これは、株式投資益の増加及び平均運用資産の増加による資産運用手数料収入の若干の増加が、特にクレジット商品からの運用報酬の減少によって相殺されたためです。純収益は、前四半期と比較して7%減少しましたが、これは主として、フィー・ベースの収益が減少したためです。この収益の減少は、株式投資益の増加とトランザクション・フィーの増加によって一部相殺されたものの、運用報酬の大幅な減少と、プライベート・エクイティの実現利益に対する成功報酬の大幅な減少によるものです。運用報酬の減少は、主としてクレジット商品及びシングル・マネージャー・ヘッジ・ファンドからの手数料の減少によるものです。

当四半期のフィー・ベース・マージンは43bp(前年同期は45bp、前四半期は46bp)でした。これは、フィー・ベースの収益の減少と平均運用資産残高の増加によるものです。当四半期の平均運用資産残高は、前年同期と比較して10.4%、前四半期と比較して3.6%、それぞれ増加しました。

非戦略的事業業績

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の非戦略的事業業績には、旧アセット・マネジメント部門の再編に関連したポジション、小規模市場撤退施策に関連したランオフ(漸次縮小)業務と一部のレガシー・クロスボーダー関連ランオフ業務、訴訟関連費用(主として米国クロスボーダー問題関連)、ドイツ国内業務再編の影響、その他旧コーポレート&インスティテューショナル顧客事業における非戦略的ポジションの縮小、いくつかの金融商品のランオフ及び積極的な削減などが含まれています。

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門－非戦略的事業業績

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
非戦略的事業業績(単位:百万CHF)								
純収益	186	114	382	63	(51)	509	839	(39)
貸倒引当金繰入額	(1)	(7)	21	(86)	-	8	53	(85)
営業費用合計	116	1,752	151	(93)	(23)	2,014	549	267
税引前利益/(損失)	71	(1,631)	210	-	(66)	(1,513)	237	-

2014年第3四半期のプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の非戦略的事業における税引前利益は、7,100万CHFでしたが、これは、ドイツ国内のプライベート・バンキング事業の売却益1億900万CHFを含んでいます。前四半期の同部門の非戦略的事業の税引前損失は16億3,100万CHFでしたが、これは、すべての未解決の米国クロスボーダー問題の最終的な和解に関連した訴訟和解関連費用16億1,800万CHFによるものです。

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の運用資産

運用資産は、1兆3,661億CHFであり、前四半期末と比較して364億CHF増加しましたが、これは主として、米ドル高による当社に有利な外国為替関連動向、ポジティブな市場動向及び新規純資産によるものです。

新規純資産: 当四半期のプライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の新規純資産は74億CHFでした。戦略的ポートフォリオにおいて、ウェルス・マネジメント顧客事業は、当四半期に51億CHFの新規純資産を提供しましたが、これは、西欧市場のクロスボーダーの流出によって一部相殺されたものの、新興成長市場(特にアジア太平洋地域)からの継続的かつ堅調な流入があったためです。当四半期のスイス国内のコーポレート&インスティテューショナル顧客事業における新規純資産は9億CHFでした。当四半期のアセット・マネジメント事業における新規純資産は33億CHFでしたが、これは主として、従来型商品、クレジット商品及びプライベート・エクイティファンドへの資産流入(新興国市場のジョイントベンチャーからの資産流入を含む。)、があったためです。非戦略的的事业ポートフォリオにおいては、14億CHFの正味資産流出がありましたが、これは、一部の事業の撤退によるものです。

プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門の運用資産

	期/期末			増減率(%)		期/期末			増減率(%)
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY	
事業別運用資産 (単位: 十億CHF)									
ウェルス・マネジメント顧客事業	864.3	829.7	782.9	4.2	10.4	864.3	782.9	10.4	
コーポレート&インスティテューショナル顧客事業	266.6	261.4	241.1	2.0	10.6	266.6	241.1	10.6	
アセット・マネジメント事業	391.1	377.1	349.0	3.7	12.1	391.1	349.0	12.1	
非戦略的的事业	13.4	25.9	48.7	(48.3)	(72.5)	13.4	48.7	(72.5)	
事業全体で運用される資産	(169.3)	(164.4)	(153.5)	3.0	10.3	(169.3)	(153.5)	10.3	
運用資産	1,366.1	1,329.7	1,268.2	2.7	7.7	1,366.1	1,268.2	7.7	
平均運用資産 (単位: 十億CHF)									
平均運用資産	1,346.7	1,311.6	1,275.8	2.7	5.6	1,313.4	1,293.4	1.5	
事業別新規純資産 (単位: 十億CHF)									
ウェルス・マネジメント顧客事業	5.1	7.4	3.8	(31.1)	34.2	23.1	17.2	34.3	
コーポレート&インスティテューショナル顧客事業	0.9	0.6	0.5	50.0	80.0	1.9	4.8	(60.4)	
アセット・マネジメント事業	3.3	4.1	4.4	(19.5)	(25.0)	14.3	15.5	(7.7)	
非戦略的的事业	(1.4)	(1.7)	(1.2)	(17.6)	16.7	(5.4)	(4.9)	10.2	
事業全体で運用される資産	(0.5)	(0.3)	0.6	66.7	-	(2.7)	(4.9)	(44.9)	
新規純資産	7.4	10.1	8.1	(26.7)	(8.6)	31.2	27.7	12.6	
新規純資産成長率 (%)									
新規純資産成長率: ウェルス・マネジメント顧客事業	2.5	3.7	1.9	-	-	3.9	3.0	-	
新規純資産成長率: アセット・マネジメント事業	3.5	4.5	5.1	-	-	5.4	6.4	-	

インベストメント・バンキング部門

2014年第3四半期のインベストメント・バンキング部門の税引前利益は5億1,600万CHF、純収益は33億300万CHFでした。同部門は堅調な業績を上げましたが、これはほとんどの事業における堅調な顧客活動と持続的な市場シェアを反映したものです。戦略的事業における純収益は低調だった前年同期を24%上回りましたが、これは特に債券業務における、商品及び地域にわたる大幅な顧客取引によって牽引されました。純収益は前四半期と比べて横ばいでしたが、これは多くの事業における底堅い事業環境によるものでした。インベストメント・バンキング部門は2014年第3四半期に非戦略的事業ユニットの縮小を引き続き推進し、それぞれ前四半期に比べて、スイス国内のレバレッジ・エクスポージャーを110億米ドル削減して660億米ドルに、バーゼル3リスク加重資産を20億米ドル削減して120億米ドルとしました。

インベストメント・バンキング部門

	期／期末			増減率(%)		期／期末 増減率(%)		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
公表業績(単位:百万CHF)								
純収益	3,303	3,342	2,552	(1)	29	10,061	9,897	2
貸倒引当金繰入額	36	(5)	7	-	414	31	5	-
従業員報酬及び給付費用	1,450	1,499	1,129	(3)	28	4,470	4,080	10
その他の営業費用合計	1,301	1,096	1,187	19	10	3,465	3,529	(2)
営業費用合計	2,751	2,595	2,316	6	19	7,935	7,609	4
税引前利益	516	752	229	(31)	125	2,095	2,283	(8)
指標(%)								
規制資本利益率	8.3	12.3	3.6	-	-	11.4	11.8	-
費用／収入比率	83.3	77.6	90.8	-	-	78.9	76.9	-

戦略的事業業績

当四半期のインベストメント・バンキング部門の戦略的事業は、税引前利益9億9,500万CHF、純収益34億1,900万CHFを計上しました。債券販売及び取引業務の収益は、大半の商品において、顧客活動の拡大により大きく利益が伸びたことにより、前年同期を大幅に上回りました。収益は、また前四半期比でも増加しました。これは、多くの事業にわたって有利な事業環境が続いたことを反映しています。株式販売及び取引の業績は、システムティック・マーケットメイキングとキャッシュ・エクイティの業績低下が堅調だったデリバティブとプライム・サービスを相殺したため、前年同期及び前四半期と比べて若干低下しました。引受及びアドバイザリー業務の業績は、堅調な債券及び株式の引受業務とアドバイザリー収益の拡大を背景に、前年同期と比べて好調でした。収益は前四半期比で横ばいとなり、業界全体にわたる活動の鈍化と一致する形となりました。営業費用合計は、主に裁量業績連動報酬の費用増加を背景に、前年同期を17%上回り、前四半期比では微増となりました。当四半期の戦略的事業のバーゼル3リスク加重資産は1,590億米ドルと、前四半期から70億米ドル減少しました。この減少は主にプライム・サービス及びグローバル・マクロ商品業務の縮小によるものです。当四半期末時点のスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは7,910億米ドルと、前四半期比で140億米ドル増加しました。

債券販売及び取引業務: 当四半期の収益は低調だった前年同期から大幅に改善しましたが、これは多くの商品における顧客活動の拡大によるものです。前年同期の業績は、米国連邦準備制度理事会(FRB)による債券購入縮小の発表を受けた金利上昇と信用スプレッドの拡大を背景に顧客取引活動が大幅に低下したため、大きなマイナスの影響を受けました。分散型証券化商品業務の収益は好調でした。これは、非政府機関債及び政府機関債に関する業績の拡大に加え、アセット・ファイナンスの好調が続いたためです。新興成長市場の業績の大幅な改善は、グループ各拠点における取引業務の収益増加と

顧客の堅調な資金調達活動によるものです。グローバル・マクロ商品の収益は改善しましたが、これは市場のボラティリティ上昇と、特に外国為替業務における顧客活動の拡大を反映しています。グローバル・クレジット商品の収益は減少しながらも堅調でした。これは市場のボラティリティ上昇が収益にマイナスの影響を及ぼしたため、レバレッジ・ファイナンス取引の低調な業況を反映しています。多くの事業において良好な営業環境が続いたため、収益は前四半期を上回りました。新興成長市場の収益は堅調な発行業務と取引活動によって大幅に増加しました。グローバル・マクロ商品の収益の増加は外国為替業務の業績の改善によるものでした。証券化商品の収益は、主に堅調なアセット・ファイナンスの業績と政府機関債関連の増収を背景に堅調でした。グローバル・クレジット商品の収益は、主に取引環境の悪化によるレバレッジド・ファイナンスの業績悪化を背景に低下しました。

株式販売及び取引業務: 横ばいとなった業績は、低調な取引活動を反映したものでした。システムティック・マーケット・メーカー業務の業績は、日本の量的緩和によるプラスの影響などによって好調だった前年同期から、大幅に低下しました。キャッシュ・エクイティ業務の収益も、米国市場の取引高の減少とブラジルの低調な活動による手数料収入の減少を背景に低下しました。デリバティブ業務の収益は大幅に増加しました。これは、プライベート・バンキング & ウェルス・マネジメント部門が販売する、手数料ベースの商品がアジア太平洋地域を中心に好調な伸びを見せたことによるものです。プライム・サービスの収益は、顧客残高の伸びとポートフォリオ最適化の取り組みを反映して増加しました。前四半期に比べると、収益は主に取引環境の悪化によるシステムティック・マーケット・メーカー業務及びキャッシュ・エクイティ業務の減収を背景に減少しました。この減収はデリバティブ業務の好調な収益によって一部相殺されました。プライム・サービスの収益も、時季的に好調な配当シーズンに伴うプラスの影響などによって好調だった前四半期に続き増加しました。

引受及びアドバイザリー業務: 債券引受の収益は、好調なレバレッジド・ファイナンスの業績を反映し、大幅に増加しました。この増収は、投資適格債からの減収によって部分的に相殺されました。これは、投資適格債手数料プール全体の減少がウォレット・シェア(各商品の手数料プール全体に占めるクレディスイスのシェア)の上昇を相殺したためです。前年同期と比べると、株式引受の業績はアリババの取引に代表される、新規株式公開(IPO)による収益の大幅な増加を反映しています。転換社債の収益もウォレット・シェアの上昇と転換社債の手数料プール全体の増加を反映し、大幅に増加しました。また、追加売出しによる収益増加も寄与しました。アドバイザリーの収益は前年同期を上回りました。これは M&A 手数料プール全体の増加と好調な企業活動によるものです。債券引受の業績は前四半期と比べると、新興成長市場のストラクチャード・ファイナンス関連の貸出しによる収益増加が目立っています。この増収は、レバレッジド・ファイナンス関連の手数料プール全体の減少がウォレット・シェアの上昇を上回ったことによるレバレッジド・ファイナンスの減収によって、一部相殺されました。投資適格債からの収益も、業界活動の低下を反映して減少しました。株式引受では IPO と追加募集が減収となりましたが、これは前四半期の好調な活動後、業界全体の取引高が減少したことと一致しています。アドバイザリー業務の収益は前四半期を上回りましたが、これはウォレット・シェアの上昇によるものです。

インベストメント・バンキング部門－戦略的事業業績

	期／期末			増減率(%)		期／期末 増減率(%)		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
戦略的事業業績 (単位：百万 CHF)								
債券引受業務	519	483	424	7	22	1,470	1,419	4
株式引受業務	214	268	129	(20)	66	665	492	35
引受業務合計	733	751	553	(2)	33	2,135	1,911	12
アドバイザー及びその他の報酬	170	161	152	6	12	511	464	10
引受及びアドバイザー合計	903	912	705	(1)	28	2,646	2,375	11
債券販売及び取引	1,551	1,470	1,031	6	50	4,607	4,438	4
株式販売及び取引	1,069	1,119	1,095	(4)	(2)	3,394	3,779	(10)
販売及び取引合計	2,620	2,589	2,126	1	23	8,001	8,217	(3)
その他	(104)	(121)	(82)	(14)	27	(308)	(277)	11
純収益	3,419	3,380	2,749	1	24	10,339	10,315	0
貸倒引当金繰入額	29	(5)	7	-	314	24	3	-
営業費用合計	2,395	2,343	2,045	2	17	7,150	6,899	4
税引前利益	995	1,042	697	(5)	43	3,165	3,413	(7)
指標 (%)								
規制資本利益率	17.1	18.7	12.4	-	-	18.9	19.9	-
費用／収入比率	70.0	69.3	74.4	-	-	69.2	66.9	-

営業費用合計：営業費用合計は前年同期を17%上回りました。これは主に業績拡大を反映した裁量業績連動報酬の費用増加によるものです。過年度付与からの繰越報酬費用及び給与費用も増加しました。一般管理費の増加は、訴訟関連費用の増加が設備関連費用におけるコスト削減を上回ったことによるものです。前四半期比で、営業費用合計は2%の増加となりました。これは主に、訴訟関連費用と英国銀行税費用の増加によるものでしたが、裁量業績連動報酬の費用の減少により一部相殺されました。

資本指標：インベストメント・バンキング部門の戦略的事業におけるバーゼル3リスク加重資産は、前四半期を70億米ドル下回る1,590億米ドルとなりました。この減少は主にプライム・サービス及びグローバル・マクロ商品業務の減少によるものです。当四半期末時点のスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは、7,910億米ドルで、前四半期から140億米ドル増加しました。

非戦略的事業業績

インベストメント・バンキング部門の非戦略的事業業績には、債券の縮小ポートフォリオ、レガシー金利事業(主として非上場商品及び自己資本比率における資本配賦要件の高い仕組商品)、コモディティ取引事業、バーゼル3に対応しない自社社債に関連したレガシー資金調達費用、並びに以前からの訴訟費用及びその他の小規模の非戦略的ポジションが含まれています。

インベストメント・バンキング部門－非戦略的事業業績

	期／期末			増減率(%)		期／期末 増減率(%)		
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY
非戦略的事業業績 (単位：百万 CHF)								
純収益	(116)	(38)	(197)	205	(41)	(278)	(418)	(33)
貸倒引当金繰入額	7	0	0	-	-	7	2	250
営業費用合計	356	252	271	41	31	785	710	11
税引前損失	(479)	(290)	(468)	65	2	(1,070)	(1,130)	(5)

インベストメント・バンキング部門は、当四半期もバーゼル3リスク加重資産及びスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーを含む非戦略的事業ユニットの漸次縮小戦略を引き続き推進し、コモディティ取引事業の非戦略的事業ユニットへの移管を完了しました。当四半期の非戦略的事業について、税引前損失4億7,900万CHF、純損失1億1,600万CHFを計上しました。純損失の幅は前年同期に比べて縮小しました。これはポートフォリオ正味評価益に加え、レガシー社債及び取引資産双方の積極的な運用による資金調達費用の改善を反映しています。前四半期比では、純損失の幅は拡大しました。これは、前四半期でのポートフォリオの正味評価益によるものです。当四半期の業績には、レガシー金利ポートフォリオのポジション解消費用の増加も反映されています。営業費用合計は、前年同期比、前四半期比ともに上回りましたが、これは訴訟関連引当金の積増しによるものです。当四半期末現在の同部門の非戦略的事業のバーゼル3リスク加重資産は120億米ドルと、前年同期を90億米ドル、前四半期を20億米ドル下回りました。2015年末までのリスク加重資産の目標額は60億米ドルです。非戦略的事業のスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは660億米ドルで、前年同期比で280億米ドル、前四半期比で110億米ドルの減少となりました。2015年末までのスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーの目標額は240億米ドルです。

コーポレート・センター

コーポレート・センターには、親会社の業務、例えば、グループ・ファイナンス、クレディ・スイス・グループがスポンサーとなっているプロジェクトにかかる費用、各部門に割り当てられない一部の費用及び収益などが含まれています。また、グループ内企業間の収益及び費用を除外するために必要な連結及び除去調整分も含まれています。

コーポレート・センター

	期/期末			増減率(%)		期/期末			増減率(%)	
	3Q14	2Q14	3Q13	QoQ	YoY	9M14	9M13	YoY		
公表業績 (単位: 百万CHF)										
純収益	109	45	(419)	142	-	(33)	(613)	(95)		
貸倒引当金繰入額	(2)	0	0	-	-	(1)	1	-		
従業員報酬及び給付費用	102	235	115	(57)	(11)	503	336	50		
その他の営業費用合計	167	183	25	(9)	-	435	116	275		
営業費用合計	269	418	140	(36)	92	938	452	108		
税引前損失	(158)	(373)	(559)	(58)	(72)	(970)	(1,066)	(9)		
非戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)										
純収益	180	48	(429)	275	-	82	(575)	-		
貸倒引当金繰入額	0	0	0	-	-	0	0	-		
営業費用合計	93	272	41	(66)	127	509	211	141		
税引前利益/(損失)	87	(224)	(470)	-	-	(427)	(786)	(46)		

コーポレート・センターは、2014年第3四半期に税引前損失1億5,800万CHFを計上しました。前年同期は5億5,900万CHFの税引前損失、前四半期は3億7,300万CHFの税引前損失でした。戦略的事業は2億4,500万CHFの税引前損失を計上しました。非戦略的事業は8,700万CHFの税引前損失を計上しました。これには、主に自社信用スプレッドの公正価値評価益3億5,100万CHFが含まれ、その一部はドイツ国内のプライベート・バンキング事業の売却に関連する1億600万CHFの非継続事業への分類変更、IT構築簡素化費用6,900万CHF、主にクレディ・スイス・グループ全体のコスト効率化措置に関連する退職金及びその他の報酬費用から成る事業再編費用6,900万CHFによって相殺されました。

貸借対照表、株主資本及び規制資本

貸借対照表

2014年第3四半期末の資産合計は9,544億CHFで、前四半期に比べ7%増加しました。これは、外国為替換算の影響と営業活動の増加によるものです。外国為替換算調整による影響分を除いた場合、資産合計は181億CHFの増加となります。

株主資本合計

クレディ・スイス・グループの当四半期末の株主資本合計は、439億CHF(前四半期末は409億CHF)に増加しました。株主資本合計は、累積為替換算調整額に対する外国為替の変動、純利益及び株式報酬の付与によってプラスの影響を受けました。これらの変動は、将来の株式報酬付与に対するヘッジ取引によって一部相殺されました。当四半期末のクレディ・スイス・グループの発行済株式数は、16億720万株です。

規制資本及び比率—バーゼル3

当四半期末のCET 1比率は14.3%で、前四半期末の13.8%を上回りました。これはCET 1資本の増加によるものですが、一部はリスク加重資産の増加によって相殺されました。クレディ・スイス・グループの当四半期末のTier 1比率は、16.4%、前四半期末は16.0%でした。当四半期末の自己資本比率は、前四半期末の19.5%から20.1%へ増加しました。

当四半期末のCET 1資本は418億CHFで、前四半期末の395億CHFを上回りましたが、これは主として、外国為替換算のプラスの影響、純利益及び株式ベースの報酬の正味影響によるものです。CET 1資本は、四半期ごとに計上している未払配当金の影響も受けています。

当四半期末の追加Tier 1資本は63億CHFへ、Tier 2資本も106億CHFへそれぞれ増加しましたが、これは主として、外国為替換算のプラスの影響によるものです。

当四半期末の適格資本合計は588億CHFでした(前四半期末は556億CHF)。これはCET 1資本、追加Tier 1資本、Tier 2資本の増加を反映しています。

当四半期末のルックスルーのCET 1比率は、2014年度末の目標の10.0%超、長期目標の11.0%に対して、9.8%でした。

資本比率—バーゼル3

期末現在	段階的实施			ルックスルー		
	3Q14	2Q14	4Q13	3Q14	2Q14	4Q13
BIS基準資本比率(%)						
CET1比率	14.3	13.8	15.7	9.8	9.5	10.0
Tier 1比率	16.4	16.0	16.8	13.6	13.1	12.8
自己資本比率	20.1	19.5	20.6	15.9	15.4	15.1

スイス規制資本及び比率

当四半期末のスイス国内CET 1資本比率は14.2%、スイス国内自己資本比率は20.0%であり、これに対してスイス国内資本比率段階的導入要件は、それぞれ6.75%、10.18%でした。

ルックスルー・ベースでは、当四半期末のスイス国内 CET 1 資本は 278 億 CHF、スイス国内 CET 1 比率は 9.7%でした。スイス国内の適格自己資本は 454 億 CHF、同自己資本比率は 15.8%でした。

スイス国内レバレッジ比率

当四半期末のスイス国内レバレッジ比率は 4.9%、合計平均エクスポージャーは1兆 2,047 億 CHF でした。当四半期末現在のスイス国内の合計エクスポージャーは、1兆 2,400 億 CHF でした。クレディ・スイス・グループの 2015 年末の目標は為替換算調整後ベースで約1兆 500 億 CHF です。当四半期末現在ではルックスルーのスイス国内レバレッジ比率は 3.8%であるのに対し、2019 年要件の現在の必要水準は 4.0%です。2015 年における 2019 年のスイス国内レバレッジ比率要件は4.1%です。

スイス国内レバレッジ比率

期末現在	段階的实施			ルックスルー		
	3Q14	2Q14	4Q13	3Q14	2Q14	4Q13
レバレッジ比率(%)						
スイス国内レバレッジ比率	4.9	4.8	5.1	3.8	3.7	3.7